



# 仲間と共に

学校目標「めあてをもち 仲間と共に やりぬく心」

令和7年6月1日

## 心に幸せの光をともし

校長 石田耕太郎

早いもので、今年度が始まり 2 か月が過ぎました。この間、5月24日には全校が一丸となって取り組んだ運動会があり、各学級・学年内でのつながりが一層深まる姿に大変嬉しく思うとともに、私自身も大きな声で応援していました。

さて、今年度も3月20日の「国際幸福デー」に合わせて2025年度版の世界幸福度報告書が公表されました。それによれば世界147ヵ国・地域の中で、日本の幸福度は55位という結果でした。2012年から実施されている同報告書は、イギリスのオックスフォード大学ウェルビーイング研究所が、①国民1人当たりの国内総生産、②社会的支援、③健康寿命、④人生選択の自由度、⑤他者への寛容さ、⑥国への信頼度からなる6つの項目を数値化して幸福度を導き出しています。この結果をいかに捉えたらよいのでしょうか。ちなみに、日本の第1回目の報告からの順位は右図のとおりです。第1回目の40位を最高位として、若干の変動はありますが、徐々に幸福度の順位が下がる傾向にあります。私たちの目の前にいる子ども達が社会の第一線で活躍する20年後、30年後は一体どのようなになっているのでしょうか。評価項目が先の6項目である以上、劇的に好転することはかなり難しいことだと思います。しかしながら、一人一人の感じる「幸福」を考えたときはいかがでしょうか。本報告の編集者の一人であるサイモン・フレーザー大学の社会心理学教授のLara B. Aknin氏は、「人間の幸福は、他者との関係によってもたらされる。ポジティブな社会的つながりを創り出し、慈善的な行動をとることは、どちらもより大きな幸福につながる。」と述べています。



運動会の当日、とても嬉しい言葉に、私の心に幸せの光がともりました。それは学年種目の係活動をしている仲間の姿を見た児童から発せられた言葉です。その児童は放送委員として、自身が担当する種目の放送を行っていました。そして、目の前で係活動を一生懸命にしている仲間を見た時に、「Aさん頑張っているなあ！」と本当に心の声が漏れ出るように言いました。この言葉を運動会後にAさんに伝えたと、とても幸せそうな顔になり、にっこりと微笑みました。Aさんの表情を見て、幸せは日常生活の様々な場で、人と人との関りを通して創り出されていることを実感しました。



ここ三輪南地域は、「子ども達は地域の宝」という思いで、主体的に子ども達に関わってくださる方が多くみえます。今後は子ども達から関りの中で感じたことを伝えられるように努めていきたいと思っています。